

地域と医療とココロのかけはしをつなぐ

✚ 横手興生病院 広報誌

かけはし

自由にお持ち帰り下さい

2024.1
vol.65

撮影者 加賀谷 一
撮影場所 横手市蛭藻沼

コロナ禍を乗り越えて 新しき年へ

理事長 杉田 多喜男



当法人はこれまで地域に開かれた精神科医療や介護、障害者の社会福祉事業に取り組んできておりますが、この4年間は特にコロナ禍に翻弄されてきました。業務負担の過剰や人不足の中、それぞれの持ち場で職員自身は勿論、家族を含めたコロナ感染の不安を背中に負い疲弊しながらも、努力を重ね何とか乗り越えてきました。本当にご苦労様でした。

しばしストレスからの解放をはかり、気分の安定を取り戻すことは重要です。それでも最近の状況を振り返ってみると、今回のコロナ禍の経験のみならず、近年地球温暖化等の影響で大規模な自然災害も頻発していることも事実です。多くの医療機関、介護施設等が甚大な被害を受け、診療、介護の提供を継続できなくなった経験は、危機管理と事業継続計画（Business Continuing Plan）の大きな問題が露呈しました。予測できない緊急事態の対応計画により、被害の損害を最小限にとどめなければなりません。中核事業の継続と早期復旧を可能とすることを目的とした継続マネジメント（Business Continuing Management）を備えて行かなければこれまでの努力、蓄積も崩壊の危機を迎えてしまい、根本的な不安材料が残ります。

これらの内容を踏まえて、新たな年に歩をすすめて行きましょう。

当法人の特性を生かして、医療、介護、地域生活支援の体制を更に構築して、これからの超少子高齢化社会に於いて地域共生社会の構築を、行政やいろいろな社会資源とも更に協力、連携を進めることで、法人内のみならず地域での医療、保健、福祉の翼を担って行きたいと思っています。

明けましておめでとうございます

院長 安部 俊一郎



2024年は辰年、向上を象徴する昇り龍を想起させられる縁起のよい干支のようです。当法人は医療法人ですし、龍の如き猛々しさは不要であります。多少はそれにあやかって相応の維持・発展を目指していければと考えております。

遡ってのここ数年間は新型コロナウイルスに社会が振り回される中、医療者である私達はことさらにその影響を受けて参りました。コロナ禍において繰り返される感染の流行は、ほとんど全ての部署・施設に押し寄せました。自らの感染リスクも負いながら、その対策・対応に従事してくれたスタッフ全員に心から感謝を申し上げます。

さて、ようやく去年からはコロナ禍の制約が解かれ始めており、今年は社会がかつての動きをいっそう取り戻していくことでしょう。当法人もその流れに乗り遅れないようにと胸を張って言いたいところではあります。精神医療業界の厳しい現実から目を背けるわけにはいきません。日本がいまだに多数の精神科病床を維持していることは世界において特異となっています。当然ながら国はそれを問題視しており、精神科病床および肥大している精神科領域における医療費の削減を図っています。医療・介護分野の運営は、国が定める診療報酬・介護報酬の枠組みにおいてしか成り立ちませんから、基本的には国が提示する方針を遵守するしかないわけで、他に何が出来るかを考えたときに重要となるのが組織としての質を高めていくことではないでしょうか。医療・介護は住民にとって必須な分野です。精神医療はその中でも特殊な領域ではありますが、人口減少の騒がれる日本において他診療科では患者数が減っていく状況下で、精神科の患者数だけは横ばいもしくは微増しているのです(入院患者数は減っていますが)。ですから私達は精神医療の提供を続けていかねばなりません。提供する医療の質を高めるためには、組織における個人が充実されなければなりませんし、そのためには私達自身が働きやすい環境も整えていく必要もあるでしょう。

今年もよろしくお願い申し上げます。

おかげさまで

認知症疾患医療センター5周年を迎えました

開設から、令和5年3月までの
相談の実件数は1,333件、受診
された方は1,083件となっており
多くの方から受診をして頂いて
おります。

★相談・予約受付

電話番号：0182-32-2078（直通電話）

FAX番号：0782-32-2091

受診される際は、かかりつけ医からの紹介状をご用意
下さい。かかりつけがない場合は、直接ご連絡下さい。
担当の相談員がお話をお伺いします。

令和5年10月18日、横手市役所条
里南庁舎にて地域の方々や関係機関
様を対象とし、「令和5年度横手興生
病院認知症研修会」を開催しました
研修会開催は3回目となりますが、
今回は121名参加していただき、
認知症への関心の高さがうかがえま
した。

講演1として、横手市まるごと福
祉課、保健師の小野浩子氏より「横
手市の認知症施策・取り組み」につ
いてお話しいただきました。認知症
基本法の成立に伴い、認知症を正し
く理解し、認知症の方を支えていく
こと、他人事ではなく、自分事の一
つに捉えていくことが大切なことで
あるとお話しがありました。

講演2は、当法人やすらぎケアサ
ービス管理者で介護支援専門員の谷藤
美樹氏より、各関係機関との連携で

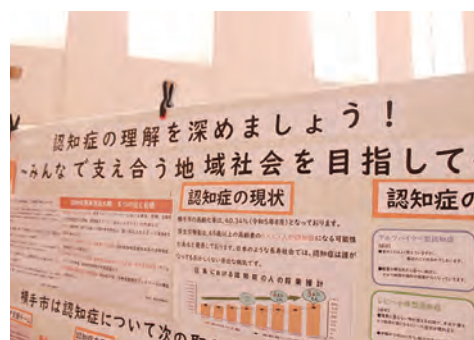
認知症疾
患医療セ
ンターに
繋がった
利用者様
の2事例
の紹介を
いただき
ました。
講演3は、
当院の作
業療法士



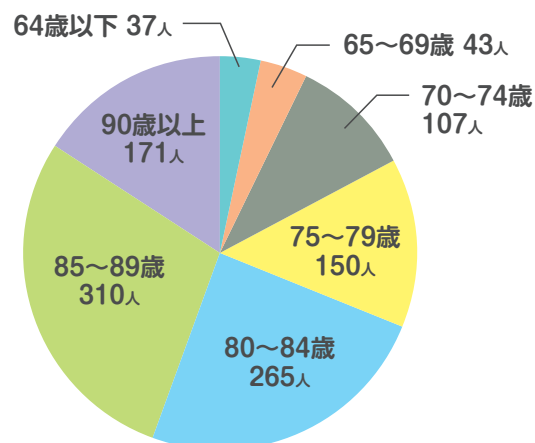
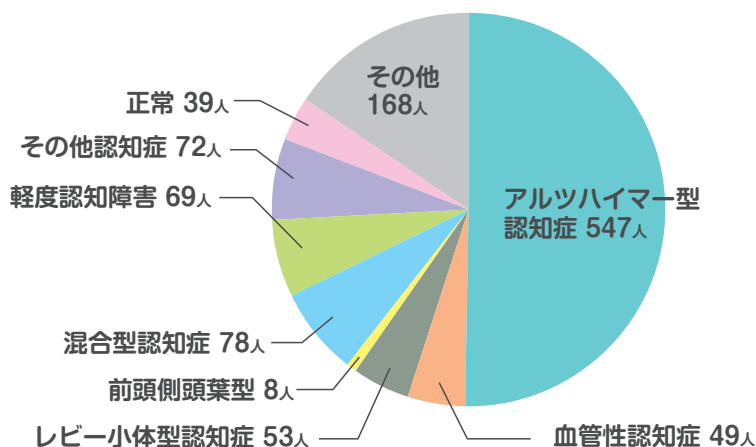
の佐藤昌
子氏より、
横手市と
連携して
行ってい
る認知症
カフェに
ついて、
地域にお
ける認知
症カフェ
の役割、

認知症カフェの一般的な効果につい
て、紹介していただきました。後半
では、当院安部院長や横手市の小野
保健師も交えて、シンポジウム形式で
認知症当事者からのお話しも聞いて
いただきました。

また、当院は秋田県から認知症疾
患医療センターとしての指定を受け、
ちょうど今年で5年目を迎えました。
開設した平成30年2月から、令和5
年3月までの相談の実件数は1,
333件、受診された方の実件数は
1,083件となっており、多くの
方から相談をいただき、受診にも繋
がっております。今後も、認知症の
方やご家族様、地域住民の方へ研修
会や情報発信を行います。認知症を
支える関係機関とスムーズな連携を
構築し、地域の皆様のお役に立てる
よう活動して参ります。



〈5年間の受診状況〉



障がい者基幹相談支援センター開設しました

障がいのある方やそのご家族が、
住み慣れた地域で、自分らしく、
安心して生活できるよう支援します。

★相談のご案内

TEL：0182-35-5781

FAX：0182-35-5782

受付時間 月～金 9:00～16:30

mail：kikan-nozomi@kohseikai.com

〒013-0035 横手市平和町 3-30 よねや MG ビル 1F（社会医療法人 興生会 地域生活支援センターのぞみ 内）



地域生活支援センターのぞみは、この度、令和 5 年 10 月 1 日に横手市から委託を受け「横手市障がい者基幹相談支援センター」を開設いたしました。基幹相談支援センターの主な業務として、まず 1 つ目は「総合相談・専門相談」です。これは障がいの種別に関わらず、無料で専門職による相談を受け付け、地域の相談員と連携を図りながら、問題解決に臨みます。2 つ目は「地域の相談支援体制の強化」です。横手市には 8 つの相談機関がありますが、助言の支援や人材育成などのレベルアップを行います。3 つ目が「横手市自立支援協議会の専門部会の事務局」です。自立支援協議会は、障がい者等の支援体制について情報を共有し、関係機関と連携を緊密にするとともに、地域の実情に応じた体制設備について検討しています。

これらの業務を 3 名の精神保健福祉士、社会福祉士の専門職で対応します。

基幹相談支援センターの 1 番は、ご本人やそのご家族が、自分らしく安心して生活できるような地域づくりに尽力することです。当法人の理念「心の通う良質なサービスが提供できるよう」に、スタッフ一同日々学び、相談技術を向上していきたいと思ひます。

「福祉サービスを利用したい」「働けず生活が苦しい」など、お困り事がありましたら、まずはお電話でご相談下さい。また関係機関の皆様には、お困りの方がおりましたら、当相談支援センターを紹介いただけたらと思ひます。皆さんに寄り添いながら一緒に伴走していく支援を実践していきたいと思ひております。お待ちしております。

役割のイメージ

横手市 基幹相談支援センター



社会福祉士・精神保健福祉士
・相談支援専門員など

役割 1

総合相談・専門相談

- ✓ 障がいに関する全ての相談窓口です
- ✓ 相談支援事業所への後方支援を行います

役割 2

地域移行・地域定着

- ✓ 「退院したい」「退所したい」を実現するための体制作りをします

役割 3

権利擁護・虐待防止

- ✓ 障がいのある人の権利擁護を進めます
- ✓ 虐待防止の相談や通報も受け付けます

役割 4

地域の関係機関ネットワーク化

助言・指導

人材育成支援

連携

連携

横手市自立支援協議会・関係機関

行政機関・福祉機関・医療機関・福祉サービス事業所など

相談支援事業所

知って得する健康ナビ

粗食や和食が健康的とは限らない

和食が世界遺産に登録され早十年。洋食と比べて和食はヘルシーというイメージがありますが、実はそうとも言いきれません。健康的な食事とは、たんぱく質、脂質、炭水化物の三大栄養素をバランス良く摂取できるかどうかで見るべきです。昔ながらの質素な和食は、低カロリーで「見健康的に見えますが、たんぱく質や脂質が少なく、理想的な栄養バランスが整っていない可能性」があります。確かに、食事の欧米化が進むとともに、生活習慣病にかかる日本人の数が増えています。特に洋食に含まれる脂質の摂取エネルギーに占める割合が年々増加し、四十代以降の肥満やメタボ、動脈硬化、糖尿病、がんなどに罹るリスクを高める要因になっています。ですが同時に、食の欧米化によってもたらされた恩恵についても無視できません。乳製品や肉類をよく摂るようになったことで、日本人の栄養状態が改善し平均寿命を延ばすことに大きく貢献しているのです。和食、洋食、それぞれの良い点を取り入れて、いろんな食材を適量ずつ、バランス良く組み合わせ、食べて、賢く健康に長生きしましょう。

ケアレシピ

鮭のクリーム煮

材料（2人分）

- ★青菜 1把 ★鮭 2切
- ★玉葱 1/2個 ★しめじ 1パック
- ★牛乳 1/1と1/4カップ
- ★洋風スープの素（顆粒） 小さじ1と1/3
- ★塩こしょう 少々
- ★小麦粉 大さじ2と1/2
- ★サラダ油 小さじ1
- ★バター 大さじ1と1/2



横手興生病院栄養科

伊藤由美子監修

作り方

- ①青菜はラップで包んで電子レンジで1分ほど加熱し、ラップを外して氷水にとる。水気を切り、根元を切って長さ3〜4cmに切る。玉葱は縦に薄切りにする。しめじは石づきを切り小房に分ける。鮭は皮を取り除き、一口大のそぎ切りにして両面に塩コショウし、小麦粉を薄くまぶす。計量カップに湯1カップを入れ、洋風スープの素を加えて溶かし、スープを作る。
- ②フライパンにサラダ油を中火で熱し、鮭を入れ両面を焼く。こんがりとし、焼き色がついたら取り出す。
- ③フライパンをサッと洗ってペーパータオルで水気を拭く。バターを入れて弱火にかけ、溶けたら玉葱を入れて炒める。玉葱が透き通ったら小麦粉を振り入れ、弱火にして木べらでかき混ぜながら3分ほど炒める。絶えずかき混ぜながらスープを2回に分けて加え、しめじ、牛乳も加えて12〜13分煮る。とろみがついたら青菜、②の鮭を加え、塩コショウ少々で調味して、器に盛る。



外来担当表

2024年2月～

	月	火	水	木	金	土
第1診察室	杉田(多)	杉田(多)	小 林	小 泉	小 林	杉田(俊)
第2診察室	小 泉	佐藤(雅)	佐藤(雅)	佐藤(甫)	佐藤(甫)	
第3診察室	杉田(俊)	安 部		榊 田	杉田(俊)	榊 田
第5診察室	藤 嶋	藤 嶋		安 部	榊 田	

理 念

心の通う良質な医療を提供し、
地域に密着した信頼される病院を目指します。

基本方針

秋田県、特に県南の基幹精神科病院としての役割を果たすために
以下の基本方針のもとに運営してまいります。

1. 患者さんの人権を尊重し、良質な医療を提供します。
2. 精神科救急地域拠点病院として、救急医療の充実につとめ、社会医療法人としての役割を果たします。
3. 患者さんの社会復帰と社会参加の促進に努めます。
4. 地域精神保健福祉活動を推進します。
5. 健全な病院経営を目指します。

診療科目

精神科・内科

外来診療日

月曜日～金曜日、第2・第4以外の土曜日（祝日は休診）

診療受付時間

午前8時30分～午前11時30分



社会医療法人 興生会
横手興生病院

〒013-0016

秋田県横手市根岸町8-21

TEL 0182-32-2071

URL <https://www.kohseikai.com/>

横手興生病院

検索

